

第2回 学校運営協議会 議事録

実施日：令和5年12月7日（木）

時間：14：15～16：45

場所：六郷高等学校会議室

1 出席者紹介 ※敬称略

佐藤 良一	六郷高校同窓会会長（地域代表）
後藤 智之	教育振興会会長（外郭団体代表）
熊谷 尚輝	P T A会長（保護者代表）
西鳥羽 裕	美郷中学校校長（地元中学校代表）
鈴木 正洋	美郷の話題編集・発行（地元メディア代表）
高橋 郷	福祉施設経営者
岩田 稔	元小学校校長
伊藤 哲	校長

2 全体会 I

（1）会長挨拶

（2）校長挨拶

（3）事務連絡

3 生徒との協議会

3つの分科会で協議を行う。

4 全体会 II

（1）各分科会からの報告

自己紹介の後、アンケートについて生徒からコメントをもらった。

部会Aより

○学習面等

- ・現在学習している授業でも、もっと専門的なことを学びたい。例えば、家庭コースで調理の勉強はしているが、包丁さばきについては学んでいないので専門的に学びたい。
- ・校外学習をもっと充実させたらよいのではないかと。

- ・現在受けてる授業は簡単なので、もっと高度なレベルの学習をしてみたい。
- ・現在インターンシップを実施しているが、より様々な施設に行った方が、就職する際に役に立ったり、目標が明確になったりすると思う。
- ・人間関係を学びたい。社会に出ても人間関係は大切である。

鈴木正洋 委員より

生徒の皆さんは、色々な面で考えている。六郷高校は美郷町唯一の高校であるので、地域は支援してくれるだろう。希望する事業の計画を提示してもらえば、地域からの協力を得られるだろう。人間関係については、集団の中で学んでいくことが大切である。

西鳥羽 裕 委員より

授業参観では、生徒が授業に向かっている様子をうかがうことができた。アンケートの中で授業に満足しているという回答が多くみられたのは良いことである。授業をはじめ様々な場面で生徒が張り切って頑張っている姿を見ることで、元気がもらえる。意見や提言について、生徒の皆さんが前向きであることに感心した。生徒の皆さんがこうしたいという思いは地域に伝わると思う。コミュニティ・スクールは地域と学校が連携してできることだから、皆さんの学びをサポートしてくれる人は多くいるだろう。

部会Bより

○自分の進路希望とそのために頑張っていること（頑張ってきたこと）

- ・動物看護の専門学校に合格した。周囲の状況をよく見ながら生活をし、動物の変化にも気づけるようになっていきたい。また、成人としての自覚を身につけていけるように生活していきたい。
- ・調理専門学校に合格した。高校の教養部での調理実習が調理に進むきっかけになった。面接練習や過去の試験の確認をして頑張ってきた。
- ・秋田技術専門校に合格した。資格取得や面接練習を頑張った。将来はシステムエンジニアやパソコンに携わる仕事に就きたいと考えているので、今後プログラミングやAIに対応できるように頑張っていきたい。
- ・デザインに興味があり、大曲技術専門校に合格した。いろいろなデザインに触れていきたいと考えていて、趣味の動画編集や写真部の活動も進路決定のきっかけとなった。
- ・公務員を希望している。大仙警察署でのインターンシップがよい経験になった。人々の安全を守ることの重大さを学んだ。
- ・保育士を目指している。短期大学に入れるように勉強を頑張りたい。

○進路実現に向けて、どのようなサポートが欲しいかについて

- ・就職希望者を対象にした地域の方々の面接練習があるが、進学希望者にも実施して欲しい。
- ・公務員に対する説明会や情報が欲しい。

(各委員から)

- ・大人からの話よりも、3年生の生の情報（改善点、失敗、反省点等）や体験を、是非2年生に伝えることができれば、より進路活動に繋がっていくと思う。
- ・選択肢の多い今の時代は夢がある。面接練習については、外部の方々の協力を得ながら就職希望者だけでなく、進学希望者にもできるようにCS関係者の協力を得ることも必要だと思う。
- ・部活動やインターンシップなどの体験が、いずれ生きてくる。幅広いキャリア教育として、外部の人との繋がりを大切にしていって欲しい。
- ・学校からの紹介だけでなく、自分で探す過程も良い経験になってくる。待っているだけではなく、自分で考え行動できる人になって欲しい。それが学びや生きる力になる。主体的に考えて動ける人が今の時代で求められる人材である。

○高校生活の中で、良かったと思うことについて

- ・家庭コースで保育の実習体験をしたことが良かった。絵本の読み聞かせなどを通じて、子どもとの適切な接し方を学ぶことができた。また、子どもに対するかわいさも自分の中で増してきた。
- ・調理実習や教養部の活動が進路実現に繋がった。
- ・検定や資格取得のための時間が良かった。
- ・プログラミング教室や六高プロジェクト、ミサトでワーキングスマイル、職場体験などの様々な学校行事で多くの人と関わったことが良い経験になった。地元で働くことへの気持ちや実体験を聞くことができた。

(各委員から)

- ・夢は叶うということを信じて頑張っていて欲しい。
- ・いろいろと体験したことは、経験値を増やし、決して無駄にはならない。
- ・検定や資格取得は生徒の自信に繋がり、自分自身を高めることができる。社会に出た自分に自信をもてるような人材づくりをしていって欲しい。
- ・様々な経験や仕事を通じてキャリアアップしていって欲しい。そうした中で仕事と地域との繋がりもできてくる。

○学習意識調査の結果から

- ・もしも高1に戻れるとしたら、六郷高校を希望するか（3年生のみ）。  
全員が他校を受験すると回答

- ・六郷高校にこういうものがあつたらと思うことは。  
     購買（売店）があると便利である。  
     自習室があるといい。
- ・アンケートを踏まえて、六郷高校の校則でどういう点が不満か。  
     整容指導において基準が先生で異なるので戸惑う。学校としてのガイドラインがあるといい。

（各委員から）

- ・このCSは、生徒と大人がざっくばらんに話し合える場であればと思う。大人が気づかないものもあり、多少くだけでもいいので、まず話すことが大事であると思う。
- ・自分の考えをもった生徒たちが多い。生徒の話を聞いてもらえるようにすることも必要と思われる。
- ・学校のホームページはよく活用させてもらっているが、生徒会など生徒側の意見を取り入れたものもできたら、次世代に繋がるホームページになるのではないかと考える。

部会Cより

○ボランティア活動について

① ボランティア活動参加状況

学習意識調査結果より、ボランティア活動への参加経験が「ない」という回答が37.1%、「1回」が22.0%、「2回」が20.5%ということがわかった。コロナ禍において、活動が大幅に制限された結果であると考えられる。その反面、「6回以上」参加している生徒もおり、「福祉科」が活動しやすい状況にあることがわかった。

高橋 郷 委員より

普通科の生徒も参加できるよう、芝桜の植栽の実施時間を変更するなど、工夫していきたい。

② これまでのボランティア活動で得たこと

1・2年生：マイクロビットを使った小学生対象のプログラミング教室に参加した。教えた小学生が喜んでくれたのが嬉しかった。

3年生：クリーンアップや芝桜の植栽に参加した。地域を知ったり、地域の人と触れ合ったりできたことが良かった。

今後、参加してみたいボランティア活動として、「かまくら祭り」「夜市」等の希望が多かった。

佐藤 良一 委員より

今後どうすれば行事がより良くなるか、高校生がアイデアを出して一緒に作り上げてほしい。「発想力」「行動力」が社会に出てから不可欠となるため、高校生の時からボランティア活動を通して練習しておいてほしい。

岩田 稔 委員より

やりたいことの予算を見積もって企画を出してみるのも良い。ボランティアは「出会い」であり、間近で見て学ぶ場でもある。ためらわず、どんどん行動してほしい。学校の授業を優先させながらも、社会に目を向け、楽しみながら生きていってほしい。

③ 行事以外に行ってみたいボランティア活動

3年生：保育園訪問に行きたい。授業で経験したが、授業以外に定期的に保育園に訪問し、子どもたちに六郷高校の魅力を伝えていくことで、将来的に生徒数を増やすことができるかもしれないと思った。

高橋 郷 委員より

高校生の思いを叶えるためのパイプ作りに、委員を活用してほしい。

④ 避難訓練について

六郷高校が避難所になった場合、自分にできることは何か考える。

(各委員より)

- ・役割分担、指揮系統を明確にしておくことが重要。
- ・災害や避難に対する知識が必要で、事前学習や地域住民と一緒に訓練することも大切である。
- ・自分の身の安全を守ることが最優先であるが、地域住民が避難してきたときは、自分の得意なことを実践してほしい。
- ・消防署の講義等も活用しながら、学校の組織づくりが重要である。

(各委員から高校生へアドバイス)

岩田 稔 委員より

自分を育てる意味で、前へ進んでほしい。色々な趣味を持ちながら、アンテナを張って、様々なことを吸収して、自分の財産にしてほしい。他人と比べることはない。自分のため、くじけず頑張してほしい。

高橋 郷 委員より

「六郷のかまくら」や施設ボランティアなど、コロナ禍が落ち着いてきたこともあり、徐々に受け入れられるようになってきた。六郷高校に声をかけたいので、ボランティア活動に参加してほしい。

佐藤 良一 委員より

思い立ったらすぐやってみることが大事。上手くいかなくて当たり前である。成功体験が自信につながる。自信を持つために積極的に頑張ろう。

## (2) 意見交換

佐藤 良一 委員より

生徒と意見交換する中で生徒の元気のなさが、やや気になる。大人と話す機会をもっと生徒に与えていった方が良いのではないかと思う。

校長より

本日の協議会に向けて、事前準備はしていなかったのも、上手く話せなかったところもあったらう。活動を通して生徒は変容していく。機会をいかに与えていくかが大事である。また、活動の履歴を作っていく必要もある。様々な活動に生徒たちを後押ししていく働きかけも必要である。

西鳥羽 裕 委員より

外で学ぶことは非常に意味がある。特に、大人と接することは大切である。その道で活躍している人の言葉は子どもの心に響くものだ。今日の生徒たちは実に清々しく、発言も前向きで人間味の良さが表れている。また、授業時の様子も先生方が楽しく授業をされているので、生徒も安心して授業に臨んでいる。

高橋 郷 委員より

協議会の中で授業に余力があるという話だったが、その場合、学校として何か方策等があるか。補習等のニーズがあれば、その指導をボランティアで引き受けてくれる人を探してこななければならないのではないかと思った。

教務主任より

現在、補習をはじめとした手立てはされていない。ただ、なるべく生徒の興味や関心が失せないように指導内容やレベルを吟味して授業づくりに努めている。

熊谷 尚輝 委員より

協議会に参加した感想を含めてだが、先生方の進行により円滑に行われたのは良かった。しかし、自分の意見をPRすることに関しては正直物足りなさを覚えた。会場で生徒が自分の意見を出しても、先生方が意見をまとめてしまうと、続いて発言しようとする積極性が薄れてしまうのではないだろうか。もっと色々な人たちとざっくばらんに話せる人材を育ててほしい。高校卒業後、社会に出て活動する中でこの点は大切だと思う。アンケートに見られるように生徒の意見にもっと傾聴していただきたい。もちろん内容によっては受け入れてもらえないことがあることを子どもたちには示した上で、先生方の聴く力を活かしていただきたい。子どもたちの

発言する力を大切にして、柔軟に対応していただければ、もっと良い表情を子どもたちから引き出せると思う。地域への要望も子どもたち自身から出て、よりよい六高づくりに向かっていけるのではないかと思う。

本校のホームページの魅力発信についてだが、私自身は様々な情報を収集するという点で活用させていただいている。その上で生徒会の生徒たちからホームページ作成について意見を出させてみてはどうだろうか。生徒の視点を盛り込むとでスマホ世代の中学生にもダイレクトに情報を受け止めてもらえるのではないだろうか。是非、生徒へのそうした投げかけをしていただきたいと思います。

後藤 智之 委員より

協議会で「再度、高校入学を考えた際、本校に入学するか」という質問をしたところ、参加した生徒全員が他校への入学を回答した。しかし話を聴いていくと、各々の考えをしっかりとっていたので、恐らく本校での生活を通して、様々な力と自信がついたことでの回答とみた。今後の頑張りに期待したい。

岩田 稔 委員より

自分を高めるために資格取得があると思う。学校では将来のことを考えて各種検定試験を設定していると思う。資格取得を通して自分を高め、自分の自信につなげていくことができるだろう。学校は入学後に受検する予定の資格一覧等を生徒たちにもっと案内してもいいだろう。やがて卒業後も何事も地道に頑張ることができるような人材を育てることが望ましいと考える。

鈴木 正洋 委員より

ボランティア活動をさらに展開していく上で、過去に協力してくれた町民リストが校内で共有されるといいと考える。六郷高校が卒業後もフラッと来校できるような学校として卒業生を支えていくことが望ましい。

### (3) 校長挨拶